

絵画修復家のアトリエから

加賀優記子 絵画修復家

31

11月に入り、秋ももう随分深まってきましたね……。この号が発刊となる頃には、コートを着ていることでしょう。

先日、紅葉し始めた箱根の仙石原に、久しぶりに行ってきました。旅館の予約を取るついでに、旅行社でお正月の分も予約を入れようとしてビックリ。どこの旅館も、もうキャンセル50人待ちの状態だったのです。そこで聞いた話では、最近高額な所から予約で埋まってゆくのだそうです。ひとところ昔は、安い順だったのに。へえー、不況はやはり終わったのだなあ、と考えさせられる話でした。（こちらにはあんまり縁がないようですけど……。）

しかし、確実に不況は終息しつつあるのだと言う事がウチのアトリエに舞い込

える。）が二つ描かれてる。で、画商さんが言うには、セザンヌの絵って林檎（または蜜柑）一個で1億円なんだって。（ふうー！）

その日は、アトリエに कोरोの大作や、モノの綺麗なセーヌ河の絵も来ていて、思わず家族で記念撮影をした。こんなに名品が揃う事も珍しいし、とにかく美しいんだもの。

んでくる作品でも感じられる気がします。ずっと前、バブルがはじけた時は、廃業しようかと思つたほど、ピタッと修復の仕事が来なくなりしました。その後、徐々に絵が回転しだし、でもそれは逆回りの歯車のように、日本人が買い込んでいた印象派や有名な絵が、海外の資本にまた買い上げられて出て行く際の調査、修復仕事が多かったのです。その後も絵画売買は低調なままでしたが、このころ、また印象派などの、「日本人が所蔵するであろう作品」の修復が多くなってきました。

この間までアトリエにあったのは、セザンヌの小品。ホントに小さいの。サムホールくらい。そこにおミカンのような林檎（どうしたってそれは温州蜜柑に見

房の大きな特色だという事は、あまり知られていない。（ので、知ってもらえるといいなあ。）絵がやってきた最初の時点で、私はまずその作品の「見え」が最終的にどのような色調の深さ、艶の出力、または艶が全くない方が良いか、どういう種類の溶剤に耐え、ニスと作品表面が適合しやすいかを考えます。正確に言えば、いつも長年のカンで一瞬でそういう事を見抜いて、その場で修復の手順、直すイメージを頭の中で作ります。もし、すぐにこういう判断が出来ないと言う事は、その絵は治しにくい特徴をもっているヤツと言えるのです。

生まれついでからずっと巨匠の絵ばかりに囲まれているうちのチビは決してアトリエでは絵に近づかないように調教されている。でもこの日はセザンヌの絵を見て目をキラッとさせた。ん？と思つたら、お昼のお弁当の時私が持ってきていたテーブルの上のおミカン2個を手にとつて、私の持つセザンヌの横でポーズを決めたのだ。ほう、あんたもとうとうそんなオツな事をするようになったのね、と4歳になったばかりのチビを感慨深く思ってしまった。

ところで、ここに出て来る कोरो、モネ、セザンヌ、傷んでいる症状が違えば、もちろん修復の処置方法も違ってきます。でも、最後に仕上げで掛けるニスも絵によってそれぞれ違うのは、ウチの修復工

り結果的にちょうど良いくらいの光沢度、描かれていたものが鮮明に浮かび上がってくる効果は抜群でした。

油彩画の持つ持っている表面の特質、それとの親和性を考えた場合、こういった場合のニスは天然樹脂のダンマルニスに勝るものはないのです。合成樹脂は溶剤中の炭素結合を顕微鏡クラスで考えた場合、長鎖結合なので伸びが悪く、画面にしつくりとなじみにくい欠点を持っています。ただし、このアルデヒド樹脂については、ダンマルニスと大変に近い、扱いやすい溶液になりますし、光沢度も近い。そして、40年後には非常に黄ばんでしまうダンマルニスに比べて、この樹脂は殆ど黄ばまないのです。（と、実験結果が出た、と言う報告がある、という事です。40年後、私は多分生きてないけど！）以前、こうした合成樹脂は、ひどく粉状態になって割れて来る、とか、急激に黄ばんでくる、という問題点を多く孕んでいました。で、私が数年掛けて（今も）色々な文献を調べた以上では、近年では、今のところ、この樹脂が最も優れているようです。

引き込みやすいと思っていたので、やはり

モノについても、それぞれ色々な事を考慮して他の種類のニスを選択しています。（ほんと、修復の仕事では、こういうことを考えるのが最も楽しいし、緊張もします。）

それに、剥落しかけた絵の具層に対して使用する接着剤なんかも、色々な種類のものを駆使します……。

でも、今日はこれくらいにしときますね。だって、私らしくないほど随分真面目に書いたから、くたびれちゃった！

では、寒くなってきました、信じられないけど、もう町はクリスマスマスの飾りを出し始めましたネ！皆様お風邪を召しませぬよう！

（つづく）

कोरोとモノの絵を背景に、セザンヌの絵を持つ筆者と、ミカンを持ってポーズする娘。とってもゴージャスな記念写真でしょ！?

